

報告

科学の鉄人～サイエンスフォーラム 2006

縣 秀彦（国立天文台），篠原秀雄（埼玉県立蕨高等学校）

2006年2月11日（土）と12日（日）の2日間にわたって、科学技術館（東京都千代田区）を会場に、理科教育イベント「科学の鉄人～サイエンスフォーラム 2006」（主催：科学教育フォーラム実行委員会、後援：天文教育普及研究会他）が開催されました。このイベントは、優秀な発表者を「科学の鉄人」として称えるとともに、参加者がすぐれた実験ショーを見ることにより理科教育についての力量を互いに高めていくことを目的に開催され、今年で4回目となります。昨年はブース形式でしたが、今年はすべてステージでの実験ショーとなりました（図1）。



図1 チャバイさんの実験ショーの様子

審査は、応募による大人と子どもの審査員合計約70名によって行われ、最優秀者が2006年の「科学の鉄人」となります。

出演者はエキシビション発表1件を含めて全部で8人で、アメリカからの参加もありました。実験ショーのタイトルと発表者の氏名は次のとおりでした。

- 1 「納得！地震の周期と建物の揺れ」
福岡孝（島根県立三瓶自然館）
- 2 「水が教える大気圧」
益田孝彦（三浦市教育委員会）
- 3 「明かりへの挑戦」
市原義憲（箕面市立東小学校）
- 4 「これって、びっくり空気の色」
長嶋淳（伊勢原市立山王中学校）
- 5 「あれこれ音っと」
月僧秀弥（三国町立三国中学校）
- 6 「石っておもしろい」
境智洋（北海道立理科教育センター、2005年鉄人）
- 7 「Bubbles, Blood, and a box」
Ilan Sandor Chabay
(The New Curiosity Shop, Inc. USA)
- 8 「ザ・シャボン玉」
海野弘光（静岡科学館る・く・る）
(海野さんはエキシビション発表で審査対象外です。)

初日の11日は2組に分かれて予選が行われ、翌12日に決勝が行われました。その結果、2006年の「科学の鉄人」は、「石」をテーマにした境さんに決まりました。境さんは昨年に続いての連覇です。ステージでの実験ショーに対して「石」というテーマは地味に思えますが、審査員一人ひとりに石の標本を配ることにより実物を観察しながら一緒に石の成り立ちを考えさせるという工夫とともに、おだやかな語り口の中に石への情熱が感じられ、会場の審査員にまで「石っておもしろい」と思わせるほどでした。まさに鉄人と呼ぶにふさわしい実験ショーでした。

境さん以外の方の実験ショーもすべてレベルが高く、どれも素晴らしいものでした。参加した審査員の皆さんにも楽しんでいただけたようで、来年もぜひ参加したいという声も聞こえてきました。

このイベントの詳細については、ホームページ (<http://www.sci-fest.org/>) をご覧ください。